



# 社協ワーカーだより



No. 72 平成30年9月

地域のみなさんや関係機関の方々に向けて社協ワーカー（職員）の動きや社協の事業について情報発信するお便りです！！

発行：福岡市社会福祉協議会地域福祉課（Tel720-5356）  
各区社会福祉協議会

## 災害時にも生きる平常時のつながり ～西陵校区臨時災害ボランティアセンターの活動を通じて～

### ●地域と支援団体と市・区社協が協力して、速やかに臨時災害ボランティアセンターを開設

平成30年7月の豪雨により、7月6日の夕方、西陵中学校（福岡市西区）のグラウンドの<sup>のり</sup>法面が崩れ、道路や近隣の家屋敷地内に大量の土砂が流入する被害がありました。

翌日から、土砂の撤去作業をするために地域の方を中心に多くのボランティアが集まりましたが、西陵校区では活動をスムーズに進められるように、西陵校区自治協議会・特定非営利活動法人 YNF・一般社団法人ふくおか fun・福岡市社協・西区社協が協働で「西陵校区臨時災害ボランティアセンター」を開設・運営することになりました。その結果、7月10日までの4日間で、地域のボランティア、西陵中学校・西陵高校の学生、災害NPO団体、区役所、教育委員会など、延べ約800人の方により、道路の土砂撤去、家屋の床下に入り込んだ泥のかき出しなど、復旧支援活動が行われました。

最初の2日間の作業で道路はほぼ開通し、地域やボランティアの力の大きさ、心強さを実感しました。一方で、土砂が流入した家屋にお住まいの方の被害や精神的苦痛は甚大で、生活再建は今なお続いています。



道路や家屋に流入した土砂



短期間で通行可能になった道路



個人宅床下の泥出しの活動の様子

### ●日頃からのつながりが災害時にも役に立つ

今回の災害では、地域の方々が、ご近所同士で声をかけ合って助け合いながら復旧活動にあたっていました。近隣住民の方がボランティアへ自宅のトイレを貸してくださったり、水道を使わせてくださったり、近隣の病院からは休憩場所などの提供があったりと、地域のつながりで活動が進んでいく様子が印象的でした。

また、西区社協からの呼びかけに応じて、地域の医療・介護事業所等のネットワーク「参の会」から飲料などの物資協力があったほか、後日、福岡玄海ライオンズクラブ様からは「地域の復旧活動に役立ててほしい」と寄付もいただきました。これらの支援は活動の大きな支えになったとともに、地域と事業所等との関係の強化にもつながりました。

また、今回避難指示が出された町内では、ふれあいネットワークによる日頃の住民同士の関係づくりや避難行動要支援者の「個別計画」ができていたことが、避難の呼びかけや公民館での避難生活に大きく役立ったようです。

今回、あらためて平常時のつながりが災害時にも大きく役立つことを再確認しました。市・区社協では、ふれあいネットワークをはじめとする災害時も視野に入れた住民同士のつながりや、地域にある事業所等と地域住民とのつながりづくりをこれからも支援していきます。